

# The TENDAI journal

令和8(2026)年2月1日 日曜日  
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所: 天台宗出版室  
発行人: 出版室長 坂本 圭司  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務院内 電話: 077-579-0022(代)  
Eメール: t-press@tendai.or.jp



広報天台

## 藤原下上任後初の年賀式 比叡山延暦寺



年賀式は藤原下を大導師に、一山住職出仕のもと奉修。獅子王圓明延暦寺執行が新年の挨拶を藤原下に言上した。

藤原下は「お言葉」で、「昨年は戦争の悲惨さを風化させない取り組みや国際情勢の不安定化を受けて平和への貢献を模索する一年であった」と言及され、比叡山宗教サミット38周年「世界平和祈りの集い」や大阪・関西万博での天台声明、不滅の法灯の奉安など天台宗の平和への取り組みについて述べられた。また宗祖伝教大師は、仏性の開発と仏國土の建設と法華一乗の教法をもつて道心ある人びとで満ちる世界を望まれたとし、宗祖の願いが込められた道場を後世に継承すべく行われている延暦寺根本中堂大改修事業の無魔円成を願われた。

午後からの祝宴には、政界から自民党総務会長の有村治子参議院議員、三日月大造滋賀県知事、鳥井信吾サントリーハウス代表取締役副会長らが出席。堀澤祖詔探題大僧正、京都五箇室門跡門主らも臨席し、藤原下を囲み懇親を深めた。

挨拶した細野舜海天台宗宗

令和8年延暦寺年賀式が1月8日に延暦寺会館で開催され、宗内外諸大徳や政財界関係者ら約350名が新年の門出を祝った。藤原下は「宗祖伝教大師のみ教えを常に心に保ち、眞の平和が訪れますよう菩薩行を実践ください」と呼びかけられた。また、比叡山から発信する言葉「天知恩」が披露された。

## 菩薩行の実践で眞の平和を



天知恩 (てんちおん)  
**自然への感謝を  
忘れない**

「未曾有の自然災害が私たちの生活に混乱を招いているが、もとを正せば私たち人間の行いの結果である。今一度、天(大自然)からの恩恵を深く知り、その恩に感謝する心で一年を過ごしましょう」と紹介している。

務総長は、自国第一主義に傾く国際社会の中で対話による相互理解と融和を求める平和な世界を目指す決意を語った。

極微  
ごくみ

先月、初めて海外へ渡った。取材が決まり慌ててパスポートを取った。世間でよく聞く、雷に打たれたような衝撃や人生観が180度変わったが、異文化に触れることで人生の幅が広まり、自分の糧となつた。日本人のパスポート取得率は約17%という。それを受けたか、発行手数料の引き下げが今年の7月から施行されるようだ。長期休暇になると、海外へ行く人で賑わう空港の映像が流れるが、それが17%の更に一部だと知つて驚いた。円安による渡航費用高騰やコロナ禍以降の国内旅行への需要の高まり、身分証明書として発行する必要がなくなったことなどが原因と考えられる。延暦22(803)年4月16日、伝教大師最澄は唐へ渡った。しかし、わずか数日で船が破損し、断念せざるを得ず、再び出航できたのは約1年後のことだった。2度目の航海も4隻の船が共に出発したにも関わらず半分がたどり着けなかつたという過酷な状況だった。「いまだ聞かざるところの法を聞き、いまだみざるところの境を得た」と述べられた宗祖は、唐で得た知識のすべてを費やし日本で天台宗を開宗した。私たちが気軽に世界へ飛び立つことができるのとは、伝教大師に限らず、先人たちが決死の覚悟で海を渡り世界を繋いだからではないだろうか。